香川県教育委員会事務局義務教育課 主任指導主事 尼子智悠先生ご指導

1, 「学ぶ意味を子供が実感する国語科の授業づくり」のテーマ・内容について

- ・学ぶ意味の実感＝目的意識（何のために学ぶのか）をもつことの大切さ。
国語科の学習「話す・聞く・読む・書く」は常に子供の日常にあるもの。
日常（生活）と学習を関連付けることで、子供の意欲は高まる。

↓

「今日の学び・単元の学びが、生活にどう役立つか・将来にどう役立つか」
教師と子供が意識し、共有することで、主体的な学びが生まれる。

2, 分科会について

- ・「実践発表 香川大学教育学部附属高松小学校 木村勇樹先生」
単元を通して、子供の学びたいという意識を大切にしたい授業実践である。
縦割り班をまとめた、という子供の意識を授業に落とし、生活と学習をつないでいる。
- ・「読む・書く領域のワークショップ」
付きたい力と、目の前の子供の実態に合わせ、どのように魅力的な言語活動を設定すればよいか学ぶ機会となった。どちらのワークショップも、同じ構成で展開されており、2学期からの授業づくりに早速生かすことができる内容であった。
- ・「書写のワークショップ」
書写の技能・知識について学ぶことができた。文字について知ること（知識）と、文字とどのように出合わせるかを考えた授業づくりを通して、子供の「書きたい」「書いてみたい」という意欲を引き出すことが大切だと感じた。

3, 終わりに

- ・「学ぶ意欲」について
学級での学び合いを通して、子供たちが自然に「あんな風にできるようにになりたい」「あんなりたい」と思えるような、国語科の授業づくりを進めてほしい。